

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4070502101		
法人名	有限会社 ジューム		
事業所名	なごみ 春ヶ丘		
所在地	〒802-0803 福岡県北九州市小倉南区春ヶ丘5番1号 093-931-5961		
自己評価作成日	平成 25年1月 5日	評価結果確定日	平成25年02月11日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設時より地域とのかかわりを大切に、町内から孤立することなく運営していることです。認知症で知らない環境に置かれても、昔からここで生活しているように町内行事に参加させていただくことが利用者様が自然になじんでいただくには一番と考えています。また、ご家族も今までにない親の笑顔にふれる事もできています。これからも、これだけはどこにも負けないくらい努力したいところです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「なごみ春ヶ丘」は、大学、病院、行政機関、スーパー等、利便性の良い環境の中に、民家改造型1ユニットのグループホームである。管理者は利用者が地域の中で、自分らしく生きがいのある暮らしを続けるために、地域に溶け込む工夫を重ね、活発な地域交流が始まっている。特に、昨年10月開催の地域交流会には、30名の地域住民の参加で盛り上がり、テント設営や、秋刀魚バーベキューに沢山の方の協力をいただき、相互信頼関係が始まっている。利用者の健康管理は、かかりつけ医の受診支援と、協力医療機関による往診を併用し、看護師や介護職員のチームワークで、充実した医療連携が図られている。また、地域における非常災害時に、職員が駆け付けられる体制や、独居老人の避難場所として確保する等、防災協力関係を強化し、利用者や家族の安心に繋げている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 25年01月25日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を職員と共に理解し、一人ひとり仕事に入る前には「理念」を頭に入れ、日々仕事に取り組んでいる。	「ゆっくり明るく笑顔と共に太陽を楽しみ雨を楽しむなごみのくらし」という独自の理念を玄関に掲げ、太陽や雨を慈しみ、「普通の暮らし」を目標に、職員は明るい笑顔で、自由でのんびりと暮らせる支援を目指している。また、新人スタッフには、理念を明記した冊子を手渡し、理解して、「なごみのくらし」の実践に職員全員で取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	グループホームは地域との繋がりが一番大切だということは開設時より踏まえていることであり、入居者と共に行事には声もかけていただき参加している。	地域との交流が何よりも大事と考える管理者は、組長を引き受け、夜の見回りや小学生の下校時の交通当番等に積極的に取り組んでいる。また、町内の介護相談や地域の独居老人の安否確認等、良い関係を築くために少しずつ努力し、秋の地域交流会には60名を超す参加があり、信頼関係の構築が始まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からも認知症についての質問等に気軽に訪ねていただけるように日々努力している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は施設の全てを理解して頂く貴重な場であると考えており、毎回町内からの参加も多く、とても有意義な会議になっている。	会議は、2ヶ月毎に家族、地域代表、行政職員が参加し開催している。また、警察、消防署に参加をお願いし、3月には運営推進会議の中で消防訓練を実施する予定で、内容がマンネリ化しないよう工夫を重ねている。また、地域の独居の高齢者の困っている事の相談等があり、アドバイスをを行い、充実した会議である。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者には小倉南統括・包括からの「措置」にて入居した方が数名おり、その為日頃より密に連絡し多くの訪問をして頂き、協力関係を築いている。	行政が近くにあるので、利用者の相談や困難事例の報告、疑問点等相談に行ったり、行政職員の出入りも多く、密に連携を取っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情を把握してもらっている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時より玄関はもとより、全てにおいて安全な範囲施設等しておらず、身体拘束をしないケアにも取り組んでいる。	職員は、利用者にとって、身体拘束を受ける事がどれだけのダメージに繋がるかを理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、言葉の拘束については、気がついたらその都度その場で注意し、職員同士で話し合い、拘束のないケアの実践に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングでも毎回話し合っており、小さな言葉のやり取りの中でも言葉の暴力が起きる事のないようにと取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に受けておられた入居者がおり、管理者はその場に携わっており理解しているが、職員の理解は薄いと思う。個々に必要な状況になりうる方には活用できるように説明しているが、費用等まだまだ身近なものにはなっていないように思う。	現在制度の利用者はいないが、過去に該当者がおられた為、管理者は制度について理解している。資料やパンフレットを準備し、運営推進会議の時に配布する等して周知を図っている。また、利用者、家族が制度を必要とする時には、制度について説明し、関係機関に橋渡しする体制が整っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者とケアマネが時間をかけて十分な説明をし、理解して頂いていると信じている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でも入居者の家族には参加して頂いており、町内の方々と共に「思い」を共有している。	月2回の介護相談員の受け入れや、ホームでの暮らしについてのアンケートの実施、家族の面会や運営推進会議に意見や要望を聴き取る等、利用者や家族が意見や要望を表せる機会を作り、解決に向けて努力している。また、毎月の利用請求書送付時に、健康状態を綴った手紙と写真を同封し、利用者の暮らしや健康状態を家族に伝えている。	疎遠な家族に対して、利用者の健康状態やホームの行事、出来事、暮らしぶりについて知らせる事と、「グループホーム」「認知症」について周知を図る方法として、定期的な「なごみ便り」の復活を期待したい。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談・アンケート等、自由に発言できる環境を持ち、職場に活かしている。	ミーティング、勉強会を毎月勤務時間内に何回かに分けて開催している。議事録を作成し、職員が閲覧し全員で共有する事で、職員間の協力体制とチーム介護の取り組みを目指す体制がある。また、「セルフケア・ストレスチェック」のアンケートを実施し、職員の意見や要望を、聴き取る機会としている。出された悩みや不安、要望については、管理者、ケアマネージャーで出来るだけ早急に対応している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の長所を理解し、心使いもできる範囲で行っていると思う。また、休みがちになる職員には自宅まで迎えに行き心折れそうになるのを防ぐ努力もしている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	管理者は前職、人事に係わる仕事をしており、採用の際にも仕事に自信が持てるよう、前向きに勤務できるよう指導している。	職員の採用にあたっては、人柄を重視している。定年はなく、長く勤務出来る体制がある。料理、絵、習字、庭の手入れ等、職員一人ひとりの特技を活かし、自信を持って生き生きと働ける環境作りを努めている。休憩室があり、職員は声を掛け合って交代で休憩時間を取り、チームワークを発揮しながら、笑顔で働ける雰囲気作りを心がけ、利用者の安全で安心した暮らしの提供に繋げている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	身近なテーマで勉強会を開き、事あるごとに質問にも答えている。	地域包括支援センター職員に依頼して、人権について話してもらったり、管理者が、新聞記事や身近な事例を参考にしながら勉強会を行う等、利用者の人権については折に触れて皆で考える機会を持ち、職員の心構え等理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者やケアマネにも各研修を受けさせている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は他の同業者からの繋がりも多く、管理者同士での情報共有にも援助してくれる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまで、面談を管理者・ケアマネと共に重ね、不安なく入居できるように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての希望・不安を十分に配慮し、安心して頂けるよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの状態を繰り返し伺い、主治医とも相談し、必要とされるサービスを見極め、対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の半数は「孫」の年であり、とても穏やかな関係が保たれていると思う。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は個々の入居者の家族との関係も十分に把握しており、ご家族と共に支えていく関係を築けるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居時に家族・兄弟にくれぐれもお願いすることであり、個別に対話する時に何うようにし、家族へ伝え、関係が途切れないように支援に努めている。</p>	<p>入居当初は、近所の方や友人等よく訪ねて来られていたが、長く入居していると認知症も進み、徐々に来訪は減っている。管理者は、「家族と利用者の中にいい風が流れるように私達はお手伝いします。一番は家族です」と家族に来訪を呼びかけている。また、入居後の利用者同士の関係や、介護相談員の来訪を楽しみにされる等、新しい馴染みの関係作りに取り組んでいる。</p>	
23		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>常に皆さんがリビングにおられ、会話を楽しんでいる。また、職員が個々の認知の状態を把握しており、会話に支障がないように関わっている。</p>		
24		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>管理者がこれまでの退居者のご家族と連絡をし、「今」の状況を把握し、要望があれば、相談等に努めている。</p>		
<b>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個々の生活パターンを把握し、ご本人が安心して生活できるように心がけている。</p>	<p>職員は、「何か困った事はないですか」等、利用者に尋ねるアンケートを実施したり、利用者にと寄り添う中で、利用者の思いの把握に努め、一人ひとりの個性を大切にしながら、「何か楽しみを見つけてあげたい」と、利用者の希望を実現する努力をしている。意向表出の困難な利用者には、過去の記録やベテラン職員のアドバイス等で、出来るだけ利用者の意向に沿う介護サービスを目指している。</p>	
26		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居者情報及び家族からのヒアリングを十分に行っている。</p>		
27		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>状況に応じ、カンファを行い、個々の状態を把握している。</p>		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>個々の状態に応じ、家族及び医療機関と連携を図り、プランの見直しを行っている。</p>	<p>介護計画は、利用者や家族の希望を聴き取り、主治医の意見を参考に、担当者会議を開き作成している。利用者の急変時や重度化に備え、家族と連絡を密に取りながら、介護計画をその都度見直している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察を個別記録し、介護計画の見直しの参考にしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、ご本人及びご家族の要望にこたえられるように柔軟な対応をしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者個々の能力の把握し、地域の清掃活動等、職員と共に参加し支援している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問歯科の週1回、内科の月2～3回の往診を受けており、24時間医療連携もとっている。利用者との関係も良好で往診日を楽しみにしている。	利用者や家族の希望を聴きながら、かかりつけ医と協力医療機関の選択をしてもらっている。協力医療機関による2週間毎の往診は、きめ細かく丁寧で、24時間の医療連携をとり、利用者が安心して適切な医療を受けられる体制を整えている。また、非常勤の看護師と介護職員の連携で、利用者の健康管理は万全なものがある。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者の日常の情報を看護師に伝えており、アドバイスや日々の健康管理に活かしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関及びご家族と定期的に連携を図り、早期退院に向けてカンファ等行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一度、看取りも行っており、早い段階で意思の再確認等、慎重に取り組んでいる。	ホームで出来る事、出来ない事を明記した看取りの指針を作成し、利用者、家族に説明し、同意を得ている。ホームでの看取りの経験を活かし、「家族と一緒に看取る」事を理解してもらい、話し合いを重ね意思の確認を行い、方針を共有し、チームでの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練及び運営推進会議時にも心肺蘇生やハイムリック等の訓練をしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防及び地域の方々の協力で火災時及び近隣火災時の対応を決めている。	消防署の協力で、年2回の避難訓練を実施し、救命救急やAEDの訓練も同時に行っている。1階の3名の入居者を庭に避難させた後の見守りを地域の方をお願いし、2階の6名は職員がベランダに誘導し、消防署の救助を待つという、地域と連携した対応手順を消防署と確認し、非常災害時に備えた取り組みをしている。	夜勤専門の職員が多い事から、夜間を想定した避難訓練を実施し、対応手順の確認を行うと共に、非常災害時に電気、水道、ガスが使用不可の場合を想定し、非常用食料、飲料水、非常用備品、利用者の情報ファイル等の備蓄や準備が望まれる。
<b>、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これは職員の「質」の問題でもあり、介護に対する自己向上を高め、対応するよう心がけている。	利用者一人ひとりのこれまでの人生に思いをはせ、無理にホームの流れに巻き込むことなく、個人を尊重した介護に取り組んでいる。ホームでの一日一日を大切に、役割や楽しみ事を持ち、ゆっくり明るく笑顔で暮らせるよう支援している。また、個人情報の扱いには特に注意を払い、職員の守秘義務についても常に説明し、意識付けを行っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々の思いを把握し、自己決定できるように働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある時は、個々の食べたいものを聞き献立に反映したり、職員も楽しみながら支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	十分、支援している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じ、入居者に職員が援助して頂いている(笑)	食事は利用者にとって一番の楽しみである事を理解したうえで、料理上手な職員による季節感溢れる豊かな食事が提供されている。利用者の咀嚼の様子や食の進み具合等を見守りながら、利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を、賑やかに談笑しながら食べる様子は、家庭的で温かい雰囲気である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量・水分量を日々管理している。その方に合った食事の支援を行っている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医と相談しながら、本人の能力に応じた個別ケアを行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけや促しにより失敗が減り、安心して排泄が行われるよう支援している。	出来るだけトイレでの排泄を支援している。紙オムツではなく、リハビリパンツにパットを入れて、職員二人がかりでもトイレでの排泄の支援をしている。嫌がる人には、トイレを意識する事を大事にした対応を行い、それ以外の方には、1時間半から2時間間隔で誘導する等、利用者一人ひとりのパターンに対応した細やかな支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムを把握し、医師の指示に沿った対応を行っている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のその日の体調を考慮し、十分支援している。	入浴は1日おきに行い、日曜日は、部屋のクリーニングやシーツ洗いの日に当てている。浴室を改装し、窓を広くとり、明るく温かな気持ちで入浴出来るようにしている。入浴剤や、柚子湯、菖蒲湯等、季節に応じて入浴が楽しめるよう配慮している。入浴を拒まれる方も、湯船に入ると気持ち良さそうな顔をされるので、無理強いはいはしないが、気長に声かけし、出来るだけ入浴して頂けるよう努力している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の目的及び注意点を把握できるように薬名、効能をカルテに個別に作成し、記載している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみ事に対しても十分支援しているが、利用者共通の楽しみも見つけ支援している。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭に出たり、町内を散歩したり、通院時にはちょっと寄り道をしたりしている。	天気の良い日は気軽に近所を散歩し、庭に一步出るだけでも、椿や山茶花を眺め、木々に集まる小鳥の声を聴く等、外気に触れ、季節を感じる事が出来る。また、ミニチュアダックス犬「小春」と「なごみ」との散歩や、近所のスーパーやショッピングセンターへの買い物、時には、利用者を、家族が自宅に連れて帰る等、日常的な外出の支援をしている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に必要な物があるとき、職員と共に買い物に行き、自分のものを選ぶ楽しみも援助している。。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別の会話の中で、許す限り電話をし家族との絆を大切に、援助している。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存住宅を使用しているからか、入居時より迷いはなく、庭もある為、季節感も十分感じていただけていると思う。」	民家を改築したホームで玄関、台所、居間も家庭的で落ち着いた雰囲気である事から、利用者も入居初日から混乱する事が無い。南向きの明るい居間からは、広い庭の季節の花を楽しむ事ができ、居間の梁には洗濯物が干され、台所からは包丁がまな板を叩く音、料理の匂いが漂い、和やかな時間が過ぎている居心地の良い共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今は食卓テーブルのみだが、工夫してソファーを置きたいと思っている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と十分に相談し、工夫している。	1階に3室、2階に6室で、全室南向きの部屋の中には陽が燦々と射し込み明るい居室である。家族と相談しながら、馴染みの家具や大切な物を持ち込んでもらい、利用者が居心地よくゆったりと過ごせるよう工夫している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には十分配慮し、日々自立した生活が送れるよう心がけている。		